

港湾整備による道内港湾における クルーズ船寄港回数の増加とその効果 ～コロナ前の水準、函館港では寄港実績が過去最多に～

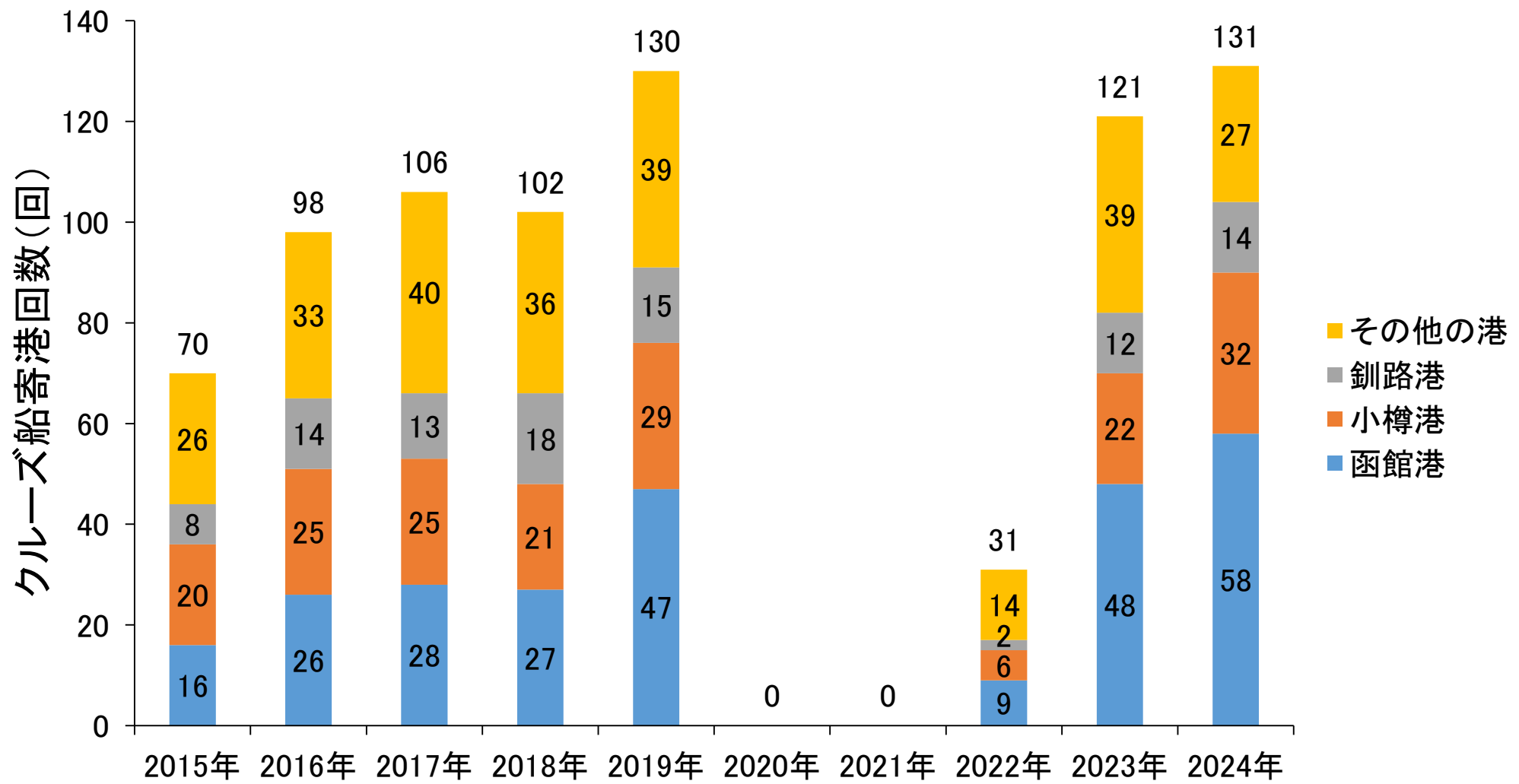
北海道開発局 港湾空港部

共に北海道の未来を創る
第9期北海道総合開発計画



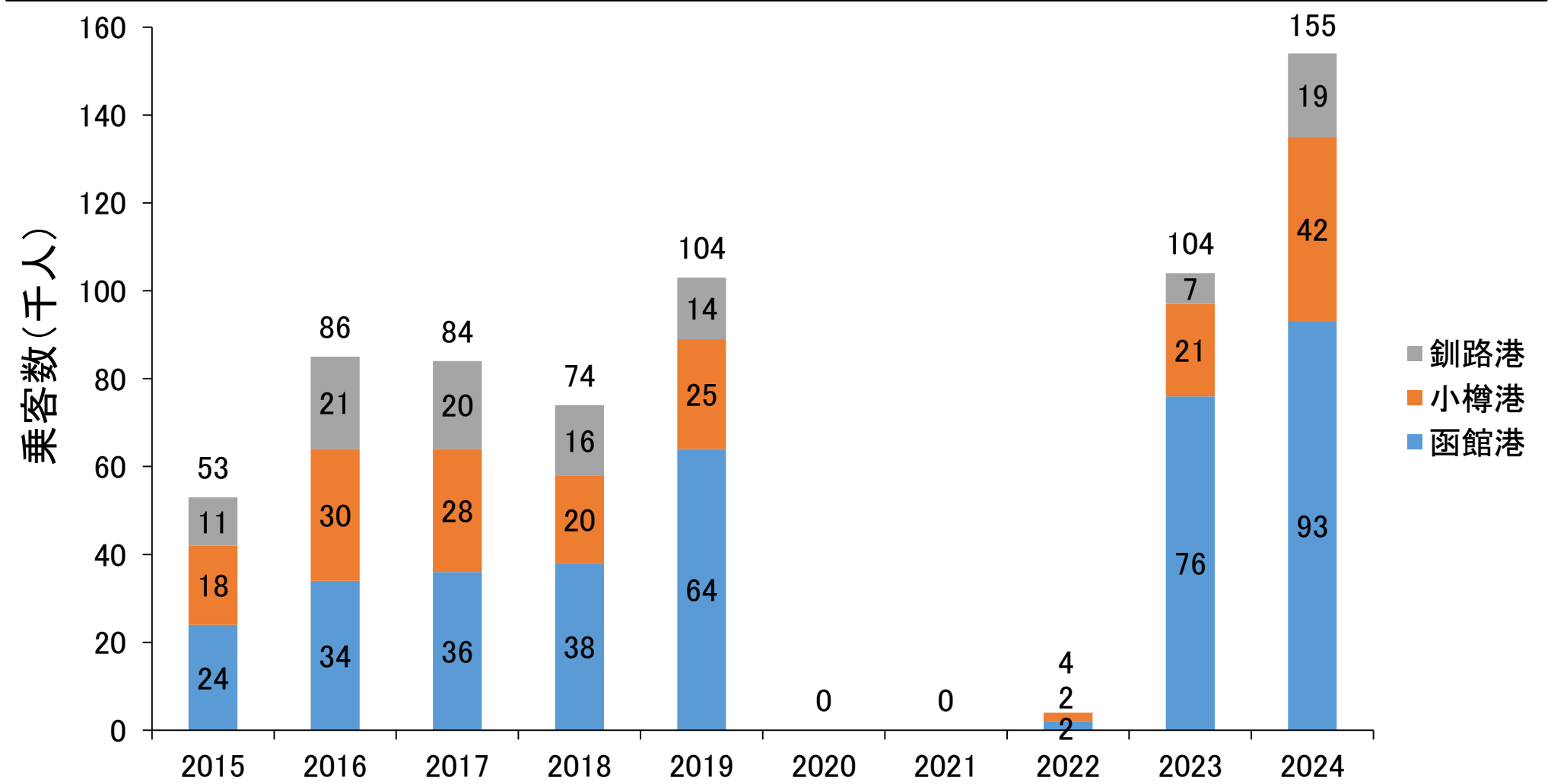
港別のクルーズ船寄港推移

- ・2024年の北海道へのクルーズ船寄港予定回数は131回。
- ・新型コロナ以前の2019年を上回る水準に回復する見込み。



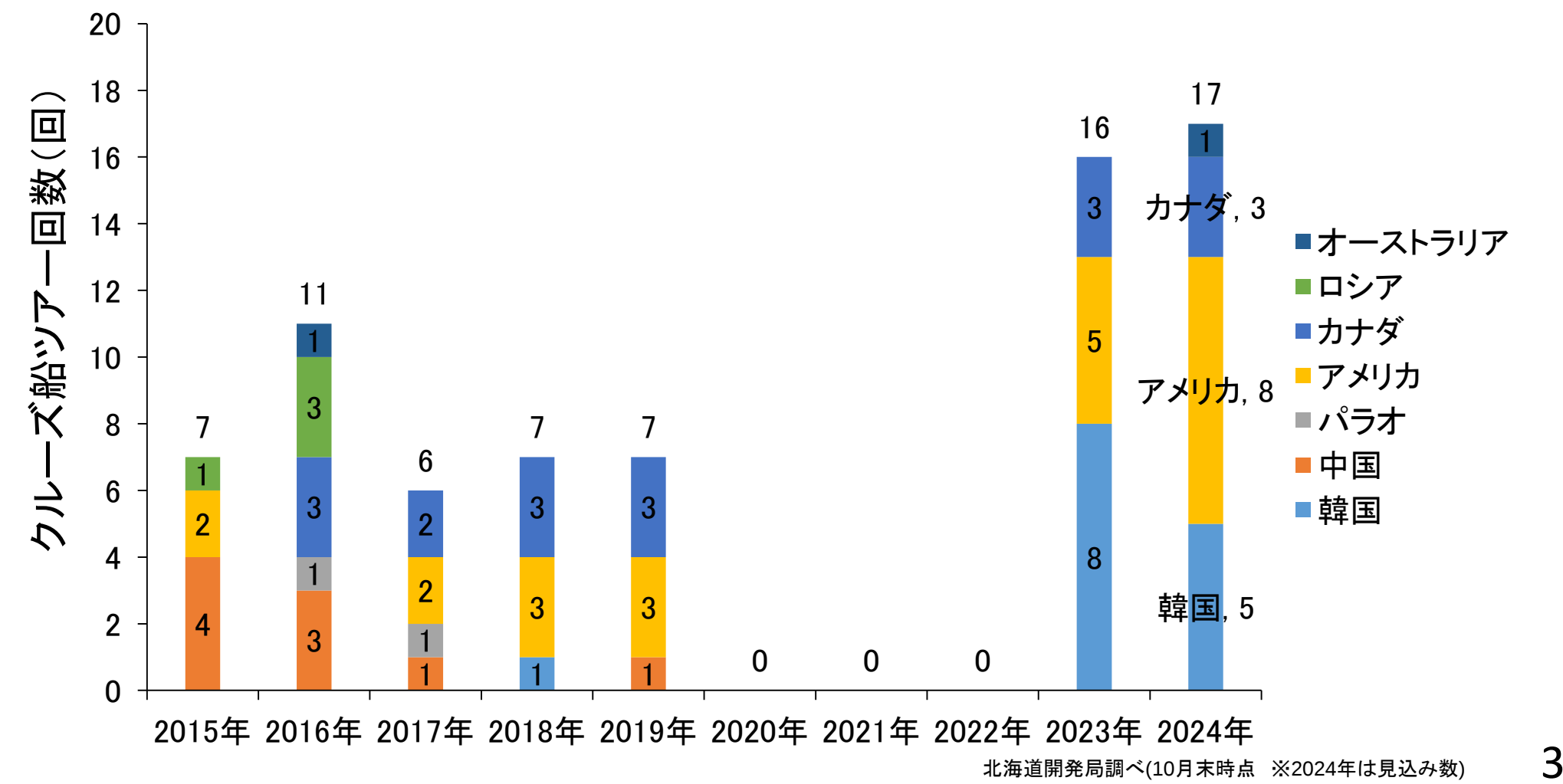
函館港、小樽港、釧路港のクルーズ船乗客数

・寄港回数上位3港（函館港、小樽港、釧路港）の合計乗客数は過去最高（約15万5千人）の見込み。



海外港湾発のクルーズ船ツアー一回数

・海外港湾発のクルーズ船ツアーについては、北米（アメリカ・カナダ）発が多く、また、新型コロナ前と比較し、韓国発のクルーズ船ツアーが増加する等、これらの国から直接、北海道に訪問するクルーズ旅客が増加している。



函館港・小樽港における街中へのクルーズ船寄港

- ・函館港では、街中に近い若松ふ頭に大型クルーズ船対応岸壁を整備(2023年供用開始)
- ・小樽港でも、街中に近い第3ふ頭に大型クルーズ船対応岸壁を整備(2024年供用開始)
- ・両港とも寄港回数がコロナ以前に回復するとともに、大型化が進み、乗客数も増加。

